

## 2020-21 年度 地区方針

ガバナーエレクト 久保田英男

### 「TOGETHER～+もっと自由に」

『楽しむための一番の方法は、この協議会や国際大会のような大勢の会議であれ、奉仕プロジェクトや例会であれ、皆が集まること（together）です。集まれば、より活動的になることができます。ロータリーのビジョン声明の最初の一語がこの言葉（together）であることも、驚くことではありません。』  
ホルガー・クナーク 2020-21 年度 RI 会長は、国際協議会でこのように語りました。

仲間が集い（together）、おなじ目標に向けて協力し進むことで、一人では成し遂げられないことを可能にします。ロータリークラブは、一人一人に異なる生業を持つ者が集い、地域・国際社会に奉仕し、若い世代を育て、仲間の親睦深め、日々様々なシーンで活躍しているのです。小さな灯が集まり輝く大きな光になるように、今や世界を照らしています。

その輪をもう少し広げることも大切だと考えています。せっかく 100 年以上もの間、積み重ねてきたものをもっと多くの人に知ってもらい、そして参加してもらいたい、と思いませんか。何故なら、もっと多くの人が集まれば、多くのアイデアが集まり、より大きなこと不可能と思っていたことが実現出来るかもしれません。何より多くの人に機会を提供できれば嬉しく思いませんか？

その為に何をしますか。

クラブの会員を増やすのもいいでしょう。

例会時間や曜日が合わなくて入会を迷っている若者の為に、衛星クラブや新クラブを作ることも、ロータリーアクトクラブを提唱するのも、いいかもしれません。ロータリー地域社会共同隊（RCC）も有効な方法ではないでしょうか。ほかにもまだまだ方法はあります。あらゆることを自由に考えてみましょう。1905 年シカゴで 4 人が集まる（together）ことから始まりました。今年は日本にロータリークラブが誕生して百年目です。次の百年へ向けた新しい時代の扉を一緒に開けてみませんか。

#### 【ロータリービジョンの声明】

『私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。』

「Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change — across the globe, in our communities, and in ourselves.」

『2020 年 2 月 17 日地区チーム研修』資料より

国際協議会を終え、2020-21 年度の計画を始めた 2 月の初め頃は、今の惨状を予想できませんでした。しかし、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的感染流行は、これまでの私たちの日常を一瞬に

して変えてしまいました。

当然、ロータリーの活動も大きな変更を余儀なくされました。クラブの例会は休止され、多くの奉仕活動が中止となり、そして、青少年交換は苦渋の選択でしたが、IBS/OBS 共に急遽の事業中止～帰国という異例の事態が続きました。そして、感染による社会情勢は悪化し続けました。

その不透明な状況の中、2020-21 年度第 2780 地区の事業計画も何度となく書き換えられてきました。その作業は、一人ひとりが自宅のパソコンの前に座り、メールやビデオ会議で作業を進めてきました。慣れない環境の中で、思うように進まないその中で強く感じることは「当たり前にも集まれる幸せ」。

今まで例会で仲間と会うことや、委員会やセミナーで交わす会話を「幸せ」と感じたことがあったでしょうか。いま、この状況にいるからこそ、そう思うのだと。外へ出られなくなった一時、地区方針のテーマを『Together』としたことを少し後悔したこともありましたが、失いつつあった日常を再びつかむことが実感できるのは、仲間が自由に集える瞬間、一緒にいられる幸せを感じる時であれば、『Together』という言葉は、むしろ偶然かもしれないませんが、タイムリーなテーマだと不思議に思っています。

一人ひとりの自制した行動が感染の拡大を抑止し、社会活動は間もなく再開され、ここでも一人ひとりの小さな努力の積み重ねと協力があれば生活は早く戻りましょう。そして、新しい日常を取り戻した時、その当たり前という「幸せ」を感じられるのがと思います。

この 2 か月の自粛生活は、無駄な時間だったのでしょくか。私はこの環境で、多くを学び、必要に迫られ普段は挑戦できない様々なスキルを得る機会を得たかもしれないと思っています。ロータリーにおいても、例えば、この 4 月に行われた当地区の会長エレクトセミナーでは、オンラインのビデオミーティングに挑戦しました。IT スキルに関係なく全ての会長エレクトが参加し、カメラとマイクの前で意見を述べ、モニターの向こうの仲間の声に耳を傾けていました。そして、My ROTARY の e ラーニングも受講して頂きました。「My ROTARY にこれだけたくさんの情報があるとは」という声も聞きました。普段では触れることのないことができた時間、「ピンチをチャンス」にできたのではないのでしょうか。

この状況で失ったことも多々ありますが、こうしてわずかでも得るものがあつたと、新しいことを始めるチャンスをつかたと、前向きにとらえて行きましょう。そうです、「機会の扉」を開き新しい世界を切り開いた経験を得ただ、と。

そして、もう一つこの中で思い出したことをお伝えします。私たちロータリーは、40 年ポリオと向き合ってきました。「ウイルスは 1 あれば無数に増殖できる、しかしゼロ (0) なら二度と生まれることはない。だから数を減らすのではなく、無に帰するのだ」。私が最も印象に残り、だから根絶しなくてはならない、そう感じた言葉です。いま目の前の危機もウイルスです。私たちロータリアンは、この長い経験から今回のようなときこそ社会をリードして頂きたいと願っています。

一時はこの方針を大幅に変えようと思いましたが、やはり初志を貫き、2月に地区役員に示したテーマ方針の通り 2020-21 年度は進めていきます。しかし、時局にあわせ事業は(柔軟に)対応します。

この困難な時期を乗り越えるため、一緒(Together)に手を取り合って頑張りましょう。

【2020 年 5 月 20 日】

# 地区目標

PETS 発表したものです。一部注釈を加えています。

## 1. RI 会長テーマおよびビジョン声明・戦略(行動)計画・強調事項の推進

先述の通り 2020-21 年度の RI 会長テーマ『ロータリーは機会の扉を開く』の意味を考え、それに相応しい活動を期待しています。

また「ロータリーのビジョン声明」及び「ロータリーの戦略的優先事項」「ロータリーの中核的価値観」の理解と周知をお願い致します。そして、5年後どのようなクラブになりたいかを自問しクラブが会員により多くの価値をもたらす方法を考える為の「クラブ戦略(長期)計画会議」の実施を推奨いたします。

## 2. RI ロータリー賞への積極的なチャレンジ

ロータリー賞の各項目は、客観的に自クラブを評価できるように設計されているので、クラブの強み弱点を把握できる利点があり、積極的に活用し、クラブの活性化活用してもらいたい。

今年度は、クナーク RI 会長の考えで、紙媒体での説明一覧はありません。全てオンラインで確認するようになりました。(とは言え、説明が難しいので小職が稚拙なガイドを作成しました。詳しくはそちらをご参照下さい。)

ロータリー賞は、表彰の為にあるのではなく、目標設定・目標管理にあります。先に推奨した「クラブ戦略(長期)計画会議」を開催し、クラブのみんなで目標を設定するのもいいでしょう。目標や目的をクラブ内で共有することは、必ず結束を一層強くします。是非、会長エレクト自身で目標を立て、クラブの皆さんと一緒に目標を決め、年度末には達成をクラブで祝って下さい。

## 3. 会員増強・会員維持・クラブ拡大

- 地区会員数を 2021 年 7 月 1 日時点で、2500 人以上に
- 女性会員比率の向上
- 新クラブ(衛星クラブ等を含む)の拡大

前後しますが、私は、あまり「女性会員」という表現は好きではありません。ロータリーは「世界を変える行動人」の集まりで、そこには性差(LGBTQ も含まれて当然です)は不要だと思っています。同様に「若い会員」もそう感じます。不必要な形容詞をつけずクラブにとって必要な人材を迎えましょう。

そして、会員増強目標ですが、今年度は各クラブ〇〇人というクラブに対し、地区からは数字を提示しません。もちろん会員増強しなくてはいいい、ということではなく、各クラブでは目

標を立ててください。

その時のお願いです。会員増強目標は、営業成績目標ではありません。数字で考えないで下さい。無理な目標も堅実な目標も望んでいません。クラブが何をしたいか、その為にはどんな人材が必要か、などを考えて目標を立ててください。その数字は、クラブの未来、希望と期待の数です。

そしてここに地区目標として掲げた『2500人以上』とは、私が今ある68クラブ一つの1年後の姿をイメージした時「こうなっているといいことがたくさんできるだろうな」という期待の数字です。この数字は、会長の強いリーダーシップと明確なビジョンの下にあります。ネガティブにならず、明るいイメージをもって挑戦して下さい。

そして、新クラブについてですが、クラブの会員数を伸ばすにあたって様々な障壁がある場合があります。世代間での問題(親が会員なので、子息子女が入会を躊躇するなど)や例会の時間帯や会費、そしてやりたい奉仕事業の違いなどで入会を少しでも考えながら、入会しない人材がいませんか?無理に既存のクラブに勧誘せず、新しいクラブや衛星クラブを立ち上げるのも手段ではないでしょうか。是非、一度考えてみて下さい。

【2020年5月20日加筆】

現状を勘案すれば、2500人の目標は無謀というより、不可能にしか思えません。しかし、ロータリーが地域において必要な存在であることを示すことが、とても重要なフェーズにあると感じています。各クラブでの増強目標は、クラブの環境や状況に合わせ独自に立てて頂きたいと思いますが、この地区におけるロータリーの活性化の指針として、今を基準に増えた、減ったというスケールではなく「2500人にどれだけ近づかれた」というメジャーを置きたいと思っています。つまり、この数字を達成するのではなく、みんなで「ここに近づこう」という目標と捉えて下さい。

#### 4. 青少年育成の推進

- ・インターアクト、ローターアクトクラブへの支援および協力の強化。また、ロータリー賞受賞に向け、指定された項目をクラブで実行するよう奨励する。
- ・インターアクト、ローターアクトの新クラブ拡大
- ・RYLA 開催(若い世代のリーダーを育成・発掘)
- ・青少年交換事業の理解と協力

ロータリーは、若者への支援は大変優れた団体です。私見ですが、青少年育成というと「大人＝指導者」「若者＝生徒・弟子」という師弟関係に寄ったイメージが強いのですが、ロータリーは「同列」「公平」「平等」という立場が明確でありながら、時には若者に寄り添う「兄姉」「親子」「子弟」であり、若者に対して「尊敬」「感謝」を隠すことなく表します。多感な世代の若者にとっては、この距離感での関係とそこで得る経験は、将来において大きな財産になります。

私自身も 20 代ローターアクトクラブで得た経験と知り合ったロータリアン・友人は、今でも大切な宝物です。私が良いロールモデルとは思いませんが、これからのロータリーを支える人材として、若者にアプローチすることは大変重要なことです。

そして、今年は十数年振りに RYLA を開催する計画を立てました。もちろん、前述の通り若いリーダーの育成・発掘という側面もありますが、若い世代にこの神奈川(第 2780 地区)で活躍するロータリアンと交流することで、ワールドワイドに飛び出すのもいいけれど、ローカル(地元)にも面白い仕事・人・ネットワークがあることを知ってもらう機会として、地方創生の一助になるような Win-Win の事業にしたいと思っています。この事業にもご理解とご協力をお願いいたします。

【2020 年 5 月 20 日加筆】

事業変更を示していますが、青少年奉仕部門の様々な事業が中止または変更となってしまいました。

しかし、当地区ロータリーは青少年の育成には長年心血を注いできました。その伝統を絶やすことなく、真摯にいまできることを青少年に示し、青少年とともによりよき社会を形成する努力は滞ることなく続けていきます。

## 5. クラブの戦略(長期)ビジョン策定の推進

戦略計画を基礎として、各クラブでは、今後5年間程度の中期ビジョンを策定しクラブの将来のあるべき姿を描き、その実現に向けての行動計画を立てていただきたい。その為に、戦略計画委員会または長期計画委員会等の委員会を立ち上げ、またはより活発に活動して頂きたい。

「1.RI 会長・・・」でも述べていますが、単年度ではなく、長期的な計画も必要です。そして、それは、大き過ぎず、抽象的ではなく、誰もイメージできることが重要だと思います。

一方、小さな成功の積み重ねが大きな目標の達成につながります。未来の成功の為に、今年度はただ準備をするだけ、計画を立てるだけでは不十分です。今年度、何を行い、それをどのように実現するか、も考え実行して下さい。計画は立てるのではなく、目的のためのロードマップで、地図を見ていると目標には到達しません。マップが描けたら、まずあなた(会長エレクト)の年度の道しるべを決め、早速走り始めましょう。

## 6. 奉仕活動推進のためのロータリー財団への年次寄付

目標1：地区年次寄付 50 万ドル

目標2：ゼロクラブゼロの継続と全会員寄付の達成

目標3：恒久基金 70,000 ドル増

《目安》 年次寄付 200 ドル/1 名

恒久基金 1,000 ドル以上/1 クラブ

この目標には理由があります。年次寄付目標と恒久基金の増額目標は、当地区においての 10

万ドルの地区補助金原資(3年後)、4名の奨学生排出、毎年1～3件のグローバル補助金事業が可能になるようそのための原資確保です。

そして、目標の2は、寄付の大小ではなく各クラブ、全ロータリアンが、ロータリーとロータリー財団の目的と意義を理解し、協力することを目的としています。理解なく寄付するのは、そのお金は十分活かされるとは思いません。みんなが進んで協力する意識を作り上げたいと思っています。

## 7. 米山奨学会寄付

寄付目標：5000万円(20,000円以上/1名) 普通寄付+特別寄付

米山奨学事業ほど、日本ロータリーの国際親善に寄与している事業はないかもしれません。この寄付もロータリー財団への寄付と同様、金額の大小より米山奨学事業への理解を第一に考え、心から日本で学ぶ奨学生の為に、気持ちよく協力いただけるように努めていきたいと思っています。寄付目標は、当地区で出せる奨学生数を確実に維持でき、なおかつ一名でも多く輩出できるよう希望を込めています。

米山奨学生・米山学友会の学生たちと、できるだけ積極的に交流して頂けるとありがたいです。

## 8. ポリオ根絶の推進

- ポリオ根絶キャンペーン促進、ポリオデーの実施
- ポリオ寄付の推進(目標 100,000ドル(40ドル/1人))

「ポリオはいつ終わるのか」「まだやるの?」という声をよく耳にします。

「あと少しと言ってから何年?」とも言われます。そう思われるのもよくわかっています。

しかし、『1』と『0』は大きな違いがあります。『1』は2にも3にも増えやがて百千万となる可能性があります。『0』が存在しないので、増えることはないのです。その『0』への戦いが続いています。絶対に無理、とあきらめる前に「何ができるか」真剣に考えましょう。私たち日本は1980年代にポリオフリーになりました。が今でも子供達にはワクチン接種が続けられています。それは、この地球上にポリオウイルスが存在するからです。根絶すれば予防接種の手間もコストもなくなり、なにより不安から完全に開放されるのです。

クナークRI会長エレクトも「私たちは、世界の子供達にポリオを根絶すると約束しました。約束は必ず果たさなくてははいけません」と語りました。約束を果たすために私たちのできることをしましょう。

【2020年5月20日加筆】

寄付について

寄付目標は、強制ではありません。お願いします。

この経済状況を勘案すれば、寄付の話や寄付目標を立てるのはいかなものかと思われるかもしれませんが、しかし、ロータリー財団への寄付は世界中の人を助けるばかりでなく、地区補助金や今般のコロナ緊急補助金などのように突如起きる危機に対して公平に使われています。この1年間の寄付額が3年後の地区活動補助金となります。今回緊急支援ができたのも3年前の寄付のおかげです。だからこそ、見えない未来の為に同様の目標は維持したいと思っています。

そして、米山奨学会への寄付は、海外から日本の大学大学院で学ぶ留学生への奨学金となります。この奨学金を必要とする留学生は多くいます。寄付の額によって支援できる学生の人数が決まります。日本と世界の架け橋となる優秀な学生を支援できるように、こんな中でも学生の為に支援する気持ちは必ず学生だけではなく多くの人に伝わると思います。厳しい中、こうしたお願いをするのは心苦しいのですが、ご理解頂きたく存じます。

ただ、この状況でもロータリー財団の「目標：2ゼロクラブゼロの継続と全会員寄付の達成」は実現したい目標の一つです。是非ご理解の上、ご協力頂ければ幸いです。

## 9. 『1クラブ1プロジェクト』の継続と奉仕プロジェクト支援

2019-20年度地区方針「1クラブ1プロジェクト」を継続し推奨すると共に、奉仕活動・奉仕プロジェクト実施のクラブ支援体制を整える。

2019-20年度第2780地区杉岡芳樹ガバナーは、昨年のPETSで『1クラブ1プロジェクト』の地区目標を掲げられました。とても素晴らしい具体的なアイデアであり、それはこれこそ単年度で終わらせるスローガンではなく継続してこそ、意義があるのではないのでしょうか。2019-20年度に着手できていないクラブも、是非英知を結集し、2020-21年度には素晴らしいプロジェクトを創り上げて下さい。もちろん「従前より当クラブは持っている」というクラブもステップアップ、グレードアップして、頂きたいと思います。

一方でクラブでの奉仕活動・奉仕プロジェクト立案・実施などで悩んでいるクラブがあれば、地区委員会でお手伝いする体制も整えていますし、近隣クラブの情報や協力などを必要とされている場合は、ガバナー補佐にご相談下さい。